

普通のきつねうどんが人の心を復活させる

私は不登校とか、家庭内暴力とか、拒食症の方達とか、非行の子達とも相談室活動の中でよく出会うんですが、彼らをお食事で徹底的に直していきます。食に目をつけると、面白いくらいに直るんです。最悪のときは本当に最悪ですよ。シンナーやったり、家出したり、中学生なのに進むべき高校なんか見当たらない。学校も休んでばかりでという感じです。以前、そういう子達5人のグループをいっぺんに直したことがあります。9月頃に、「この成績じゃ行くところないよ。」って言われてから、2ヶ月くらいで家出するし、たばこは吸うし、シンナーは吸うし、万引きはするしって、急激に落ちてしまった子です。このグループの中の1人は少年院帰りのお子さんでした。その子もかわいそうで、ご両親が離婚してお婆ちゃんのところは無理矢理引き取られたんだけど、学校も転校して、いる場所がなくてイライラしてたんです。背景を考えるとよく分かるんです。残り4人は、この少年院帰りの子と付き合うようになって悪くなった子です。みんな不安定でしたが、5人は一緒にいるときに小さいながらもやっと居場所を見つけたのです。この子達は2ヶ月半くらいで直りました。何をしたか。協力していただける4人のお母さん達にお願いしました。「帰ってこなかったら、2人1組で自転車を探しまわって迎えに行つて。」ってお願いしました。パートをしているお母さんには、「悪いけど半年仕事を休んで。」ってお願いしました。正社員として働いている方には、「半年休職をお願いします。」って、子供を第一に考える動きが取れる体制を作るということを、危機的な状態であるということをお話ししました。私が必死になって言ったので、半年間パートを休んでくれましたし、休職もとって協力してくれました。帰ってこなかったら夜中の1時半でも探しまわってもらい、見つけたら『寒かったですよ、うちにおいで。』って言ってください。」って言いました。そして食べ物を与えてもらいました。「難しいものでなくていいから。うどんを買っておいで。」って言いました。油揚げをつけてきつねうどんを作ってもらいました。「おばちゃんちにおいで。何もなければきつねうどんなら作ってあげるよ。」って。簡単にできますよね。そして、ちゃんと丼の器で出してあげた。「どうせしゃべるんだったらマンションの階段の下とかじゃなくて、うちで話しなさい。」って言って、うどんを食べてもらいました。4人の家族のうち、3家族がうどんをつくりました。もう1つの家族はおしるこを作っていました。見つける度に、夜中の何時でも「おいで。」と言っておうちに入れさせた。「こんな時間に何してるの？」って言うんじゃないかと、「積もる話もあるでしょ？」って。そうしたら、ある日子供が電話してるのが耳に入って、「シンナーやばいからやめた方がいいよ。」と書いていたそうです。この家の親御さんは、「うちの子はシンナーやっていなかったんだ。」と安心していました。随分変わりましたよ。10月に相談を始めたのですが、12月にその電話をしていて、1月になると「受験する。」と言い出しました。塾も全然行ってないし、勉強もしていない。でも自意識が高いので、無理なところでも受けたいと言う。現実離れしたところを受けるなんて「無理だよ。」って言いたいんだけど、「ここを狙うくらいの気持ちがあるんだな。」って思ったんです。「みんなで一緒のところに行つて遊ぼう。」って書いていたんです。「どうぞ受けなさい。」と書いてました。全員落ちるだろうと分かっていたけれど、自分の目的とするところにまず挑戦してごらんって。それから私に電話があつて、これが最後のチャンスだから3日間で決めなきゃいけないということで、みんな考えまし

た。結局みんなバラバラに自分の行けそうな学校を狙って、死に物狂いで勉強して、受かった。人は変わっていくんです。ここで大事だったのは、きつねうどん。それも足で踏んで粉から練ってというような高級なものではなくて、ただのうどんです。これでもちゃんと人の心を開いて復活させることができるってということなんですよ。これがカップ麺だとうまいいきません。お母さんがパートで働いていてお金を持たされている寂しい子供達は、集まって小さな食卓を囲んでいますよ。どこの食卓かっていうと、コンビニの前のコンクリートの道、あそこが食卓になっていると私は思います。お店でお湯を入れてもらってコンクリートのところでみんなお尻をついて食べています。殺風景だけど、あそこが食卓なんです。家族の食卓はないんだけど、でもそこに3人で集まって本音で言葉が交わされているなって、私はときどき思います。食卓は何も大きなテーブルが要るとは限らない。そこで人が繋がっているときに食卓状況がある、と私は考えます。